

行徳湿地と三番瀬を結ぶ暗渠水路の開渠化に関する 検討経緯等について

平成19年8月1日
環境生活部自然保護課
総合企画部企画調整課

1 概要

暗渠水路については、「千葉県行徳内陸性湿地再整備検討協議会」により平成6年10月に策定された「行徳内陸性湿地再整備計画」において、将来の整備目標として「技術的に可能な部分について開渠化を図る」こととされている。

その後、三番瀬再生計画検討会議（円卓会議）から提出された「三番瀬再生計画案」の中で、開渠化について具体的な施策として提言されたが、県としては、平成15年度に実施した調査結果から、暗渠水路の全面的開渠化は、水路の経路の土地利用状況から経費が多大になり、早期事業化は困難であるとの判断に至った。

このような経緯を踏まえて策定した三番瀬再生計画（事業計画）では、行徳湿地再整備事業に係る5か年の目標として「三番瀬との海水交換、淡水導入促進施設の検討及び着工」を掲げており、県は、事業計画に基づき施設の整備等を着実に進めていくこととしている。

2 暗渠水路の開渠化に関する協議経緯

（1）千葉県行徳内陸性湿地再整備検討協議会

平成6年10月に策定された「行徳内陸性湿地再整備計画」において、第3段階の整備目標として、暗渠水路を「技術的に可能な部分について開渠化を図る」こととされている。

第3段階の整備とは、第2段階の整備が終了し、良好な状態が保たれている場合に始められる整備としている。現在は第2段階まで終了。

第1段階：現況の環境条件に対してすぐにでも始められる整備を主体とする。
（水鳥誘致の池、海岸線の複雑化のための岬、観察路の整備等）

第2段階：ある程度の条件がそろえば開始できる整備（浄化池、築山、配水路の整備等）

第3段階：第2段階が終了し、整備された環境が安定し、良好な条件が保たれる場合に開始できる整備。（2m幅水路により新浜鴨場との切り離し、深みの埋め戻し、暗渠水路の開渠化等）

（2）市川市

市川市は平成14年12月に「市川市行徳臨海部基本構想」を策定し、その中で「行徳近郊緑地（行徳湿地）を再整備し海との連携を図る（暗渠水路の拡張）」ことが記載されている。

(3) 三番瀬再生計画検討会議（円卓会議）

平成14年7月の第5回において、水循環という視点から「行徳湿地や江戸川等との水循環の検討」が緊急に対応すべき事項とされた。

その後、下部組織である「三番瀬海域小委員会」において、「行徳湿地との水の循環について検討する」とされ、平成15年4月から4回の行徳湿地のワーキンググループで検討された。このとりまとめ内容が平成15年6月の第13回「三番瀬海域小委員会」において報告された。

その内容として、

安定した淡水の導入を図る。

海水交換能力を向上させ干出域を増大させるため暗渠を開渠とする。

無生物域の解消のため、水深の深いところを浅くする。

といった基本的な方向が示された。

これを受け、平成16年1月の「三番瀬再生計画案」では、具体的施策として「行徳湿地の大水深部の浅水化、湿地への淡水導入、三番瀬との連絡水路の開渠化」が提言された。

（開渠化と併せた市川市所有地前面における環境学習エリアのイメージ図も同時に提案された。）

(4) 行徳湿地連携検討調査

円卓会議により検討が必要とされた行徳湿地について、平成15年度に、行徳湿地と三番瀬との水循環を改善するため、淡水導入、海水交換の改善及び深みの解消を実施した場合の行徳湿地への影響を予測することを目的に調査を行った。

この中で、海水交換の改善については、新たに同規模の暗渠水路を並列に導入すること、暗渠水路を開削すること、千鳥水門を改良することについて検討を行った。

その結果、

新たな暗渠水路の導入については、海水交換量の増加が少ない

暗渠水路の開削については、湾岸道路の橋梁化が必要で、かつ、JR京葉線の高架橋基礎と干渉するなど問題が多いとされ、千鳥水門からの流入量の増大を図ることが、現実的かつ効果的な対策であるとの調査結果となった。

(5) 三番瀬再生会議

円卓会議から提言された具体的施策に対して、平成18年3月の第11回「三番瀬再生会議」において、県がこの施策に対する第1次事業計画期間における対応案を示した。

この中で、「三番瀬との連絡水路の開渠化」の具体的施策に対しては、「暗渠水路の全面的開渠化は、水路の経路の土地利用状況から経費が多大になり、早期事業化は困難である」との対応案を示した。（これに対し、委員からは特に異論は出されなかった。）

3 現在の検討状況

現在、「行徳湿地再整備事業」については、三番瀬再生計画（事業計画）に掲げる課題の1つである海水交換の促進に対する事業として、当面、現実的かつ効果的である千鳥水門の改良による海水交換能力の向上について検討を進めているところである。

4 今後の方針

(1) 行徳湿地再整備事業について

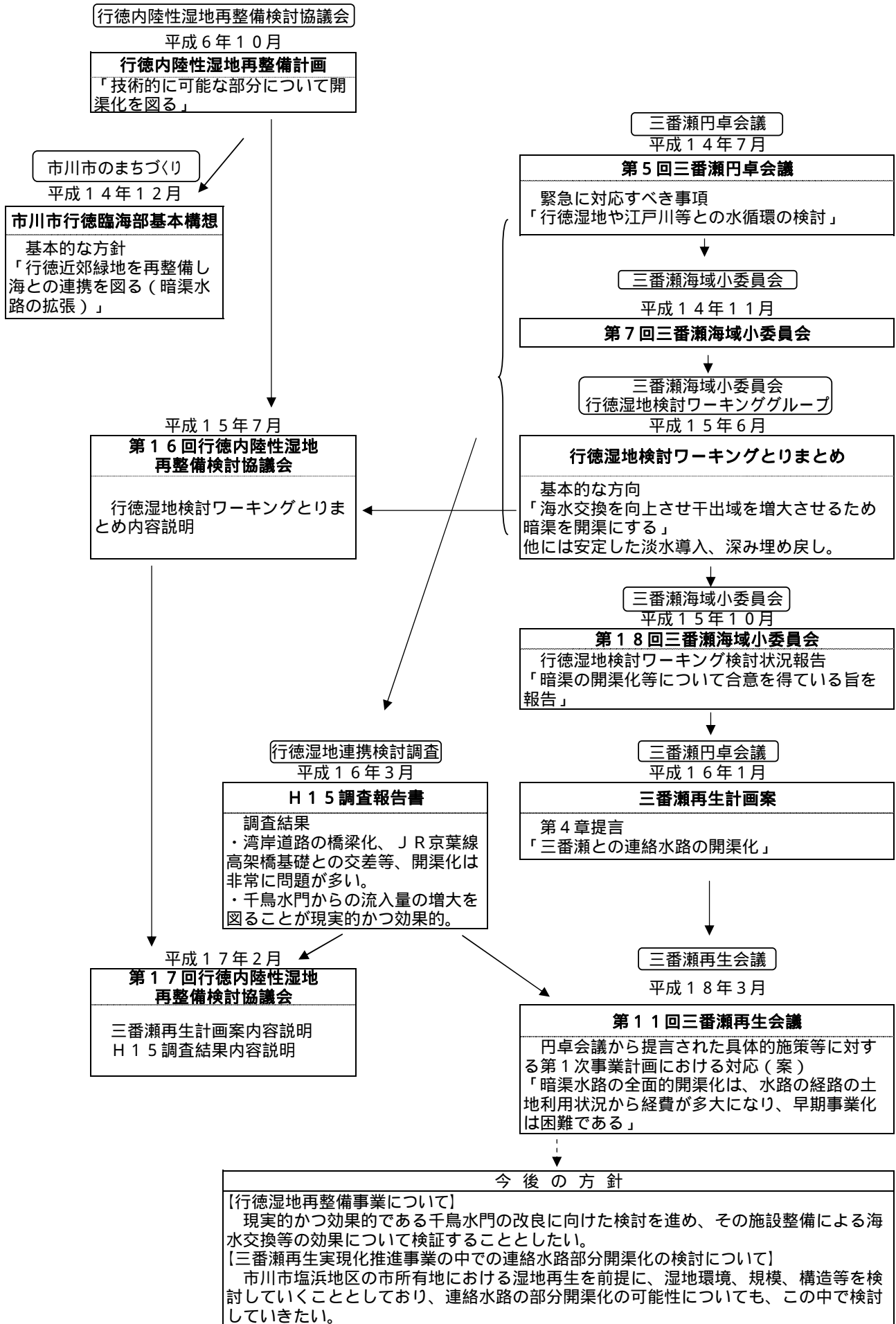
今後とも、現実的かつ効果的である千鳥水門の改良に向けた検討を進め、その施設整備による海水交換等の効果について検証することとしたい。

(2) 三番瀬再生実現化推進事業の中での連絡水路部分開渠化の検討について

平成18年度に三番瀬再生実現化検討事業において、全国の湿地再生事例を収集し、湿地再生に期待される機能・効果、湿地再生に必要な条件、留意すべき事項等の事業実施上の課題等を整理した。

今年度は前年度の調査結果を踏まえ、市川市塩浜地区の市所有地における湿地再生を前提に、湿地環境、規模、構造等を検討していくこととしているので、連絡水路の部分開渠化の可能性についても、この中で検討していきたい。

行徳湿地と三番瀬を結ぶ暗渠水路の開渠化に関する協議経緯



行徳湿地暗渠水路 概念図

